

日蓮大聖人生誕の地

太平洋に面した千葉県小湊はその名の如く小さな人里離れた漁村であった。そこに日蓮大聖人は貧しい漁夫の家庭に今から約 800 年近く前に誕生している。幼名は善日麿。世の多くの名をはせたエリートたちは家柄も血筋もよく裕福な恵まれた家庭に生まれ育っている。しかし日蓮大聖人は自らを海辺の旃陀羅（古代インドの下層階級）の子と文章にしたためられている。

12 歳になると小湊の清澄山にある古刹・清澄寺に登り道善房を師として仏門に入る。16 歳に正式に出家。時代は釈迦仏教の効力は失われた中であって、真実の仏教を求めて念仏宗、禅宗、真言宗、律宗、天台宗などが乱立。こうした中で仏教の教えの真実はただ一つのはず。民衆救済の大願を抱いて真実の宗教を探求するため、鎌倉から比叡山へ広く各宗の法義を研学しつつ一人修学の旅に出る。



いよいよ時は来た。1253（建長 5）年 4 月 28 日正午、仏教の究極を身にまとい故郷・清澄寺嵩ヶ森の持仏堂の南面に向かって声高らかに「南無妙法蓮華経」と唱えた。末法の民衆救済を誓うと共に念仏宗、律宗などを破折して「立宗宣言」をしたのであった。日蓮と改め 32 歳。

その後は宗教の正邪を論ずる立正安国論を鎌倉幕府最高権力者・北条時頼に提出。その結果は伊豆流罪、佐渡流罪、竜の口での首の座に臨むなど迫害の連続となった。その信念は現在に至っても様々な形で伝えられている。なかでも創価学会の出現により、日本から始まった日蓮大聖人の教は、今や世界 192 国地域に流布する歴史的な大発展を期す世界宗教となっている。この小さな港に立ち偉大なる日蓮大聖人のご生涯に思いを巡らせてみた。

撮影 2015 年春

